

中村かずひこ通信

【発行元】中村かずひこ未来をつくる会 〒321-4362 真岡市熊倉町3423-4 Tel. 0285-82-6285 vol.10

ホームページ <http://www.i-berry.ne.jp/~tonpei> e-mail tonpei@i-berry.ne.jp



市民と市政のかけ橋になりたい!

☆お気軽にお声をかけて下さい。

お友達との井戸端会議、勉強会等、2〜3人でも結構です。どこへでもお伺いいたします。

☆あなたのアイデアを市政にいかしたい!

お気づきの点がございましたら、どんなささいなことでも結構です。ぜひご意見を!



中村、10回目の登壇!

9月定例議会・一般質問

9月定例議会の質疑、一般質問が8日(木)、9日(金)の2日間にわたって行われました。

中村は9日のトップバッターとして登壇し、

1. 今後の医療体制について
2. 難病患者に対する支援策について
3. 自然環境保全の取り組みについて
4. スポーツ・文化活動の振興について

の4件について一般質問を行い、論戦を展開しました。

なお今回は、平成15年の初当選以来、定例議会の度に登壇してきた中村にとって、ちょうど10回目の一般質問でした。

(中面に関連記事)



ただいま、議論の真っ最中!

議員定数問題等研究会



研究会のメンバー

の説明や、各期別ごとに取りまとめた意見の発表が行われ、その後、活発な話し合いが行われました。

現在、真岡市議会では、当選期別の代表と各会派の代表が集まり、「議員定数問題等研究会」が行われています。市町合併協議の破たんなどにより、市の財政運営が今後ますます厳しくなることが予想され、市議会としても定数削減の議論が避けられない状況となっております。

9月16日(金)に3回目の会議が開催。県内外における議員定数削減の現状について



お知らせ

議員定数についてアンケートを実施しております。詳しくは、中面をご覧ください。

みんなの希望をカタチに...

建議要望を市長に提出

9月27日(火)、中村が所属する会派「新世紀・公明クラブ」では、平成18年度の市政に対する建議要望を福田市長に提出しました。

中村が出した要望では、以下のようなものが今回新たに盛り込まれました。



【総務関係】

パブリックコメント制度の早期導入/つくばエクスプレス・関東鉄道との連携強化(ダイヤ改正・割引キップの新設など)

【医療・福祉関係】

芳賀赤十字病院の医師確保/市内における2次救急拠点の整備/「休日夜間急患センター」の早期整備
ホームドクターの推奨/NPOやボランティア団体に対する総合窓口の整備/居宅生活支援事業の早期実現

【環境関係】

街路樹の保護・育成(専門家への諮問、計画策定など)

次回発行予定日

来年 1月15日(日)

次回の「中村かずひこ通信」は

発行予定です

新聞の折り込みチラシをご覧ください。

「見逃した!」という方に
バックナンバーをお送りします

これまで「未来を作る会」では、毎回定例議会終了時に、「中村かずひこ通信」を発行して来ましたが、1〜9号までを見逃された方は、お気軽にご連絡下さい。

こちらからお送りさせていただきます。



質問:中村かずひこ

中村かずひこ議会レポート

9月定例議会

答弁: 福田 武隼 市長
佐藤 務 教育長

今後の医療体制 について



質問 芳賀赤十字病院の内科医は、10月末までに2名になってしまふことが予想されており、事態が深刻化している。新聞報道によれば、日赤本社から医師を派遣する旨の回答があったとのことだが、本来、芳賀赤十字病院は15~6名の内科医が必要であると聞く。今後、医師の招へいにあたっては、どのように取り組んでいく考えなのか。

答弁 人数は未定だが、来年3月までに、日赤本社から芳賀赤十字病院へ内科医が派遣されるめどが立ったとの話を聞いている。行政としては、今後も引き続き関係医療機関に、内科医の派遣をお願いしていきたい。しかし、内科医不足解消までには時間がかかるため、2次救急受け入れ病院の確保のほか、1次救急の医療体制の充実を図るべく検討する。

質問 この度、市長が発表した『休日夜間急患センター』の構想は、患者の利便性や2次救急との連携という観点から、大変に素晴らしいものであると評価している。今後、実現に向けてどのような課題があると考えているのか。

答弁 1次救急の機能を充実させるため、来年度開始に向けて『休日夜間急患センター』の設置を検討することを、8月29日の芳賀地区救急医療対策協議会で決定した。今後の課題としては、設置場所や医療機器の確保のほか、医師会の協力、各市町の財政負担、国県の補助などが挙げられる。

質問 真岡市では、病気の悩みや軽いケガの応急処置について、電話で24時間相談できる『もおか健康相談24』を平成12年から開設している。救急医療の危機が叫ばれている中で、このサービスは極めて有効だと考えるが、市民への周知が徹底されていないと思える。より積極的にPRすべきではないか。

答弁 この事業の市民に対するPRは、市広報などでお知らせするとともに、各種検診の案内などでも紹介してきた。さらに今年度は、より一層の利用促進を図るために、国保の被保険者証更新時に、案内文を同封する予定である。

質問 特定の医療機関への集中を是正するのに、市民がホームドクターを持つことはとても有効である。しかし、ホームドクターを選ぶときに必要不可欠な、医療機関や医師個人に関する情報提供は、現在も法律によって制限されている。また、予防医療や健康相談の業務も実施されるべきだが、保険外の混合診療が禁止されているため、現状では十分な効果が発揮されるか疑問が残る。そこで、ホームドクターの実効性を高めるために、2つの規制(医療機関の広告行為、保険内・外の混合診療)について、特区申請を検討してみてもどうか。

答弁 医療機関の広告行為や混合診療については、現在国においても規制緩和を検討している。しかし、医療に関しては、国民の生命・健康・身体に直接関わるサービスであるため、医師法や医療法をはじめとする衛生規制がある。広告行為や混合診療について規制改革特区で特例を設けることは、国民の安全に地域差を生じる可能性があり不適当とされているので、医療特区の申請は難しいものと考ええる。

難病患者に対する支援策 について



質問 障がい者手帳や介護保険の受給に該当しない難病患者に対して、他の自治体で行われている『居宅生活支援事業』を実施し、支援する考えはないか。この事業は、平成9年に国で制度化されているが、実施状況は各自治体によってまちまちであり、残念ながら真岡市では行われていない。

答弁 県内では10市町が『居宅生活支援事業』を実施しているが、利用者は極めて少ないのが現状である。しかし難病は、患者本人はもとより家族にとっても精神的、経済的に大きな負担がかかることは十分承知しているため、今後『居宅生活支援事業』の導入については十分検討していきたい。

自然環境保全の取り組み について



質問 今年2月に策定された環境基本計画の中で、『もおか環境パートナーシップ会議』は重点的な取り組みとして位置づけられている。これは、市、事業者、市民が協力して環境保全活動を推進していくために、活動の場や参加の機会、情報の提供を行う目的で設定される。今後の計画やメンバーの選考方法などについて、どのように考えているのか。

答弁 『もおか環境パートナーシップ会議』の設立に向けて、自治体、企業、農業、商工、自然保護団体、基本計画策定委員であった方など、14名で構成する設立準備会議を開催し、現在、具体的な事業内容や体制について協議している。基本的な事項がまとまった時点で、市民、事業者など多くの参加者を募集し、今年度中には設立する予定である。

質問 今年1月『新世紀・公明クラブ』が視察に赴いた熊本県水俣市では、ビオトープの整備やゴミのリサイクルなどに積極的な自治会を、モデル地域として選定し、助成している。真岡市でも『環境共生モデル地域』というような名称で、同様の取り組みを行ってもよいのではないかと。地域が競い合うような形で、田畑や小川、森林などの維持・再生ができれば、市民の意識改革にもつながると考えるが。

答弁 現在、西沼地区のメダカノ里、東大島地区の磯山整備作業などが、地域づくり事業の中で展開されている。自然環境の保全については、今後も地域の自主的な取り組みとして行われることが望ましい。しかし、環境パートナーシップ会議設立準備会において、先進地視察を予定しているところであり、『環境共生モデル地域』については今後検討していきたい。

質問 真岡市では、近年街路樹に対する見方が変わりつつある。歩行者の妨げになるなどの理由から伐採される木が増えている。ただ都合良く木を植えて、都合が悪くなれば切り倒すような発想がある町に『自然と共生する』ということが出来るはずがない。今後植えられる街路樹については、専門家に意見を諮問するなどして、しっかりとした計画が必要ではないか。

答弁 今後、街路樹を植栽する場合は、道路の規格・構造、沿道土地利用など地域特性を基本とし、専門家や地域住民の話を聞きながら樹木の種類、配置を計画していきたい。また、市民に愛着を持ってもらえるような取り組みも考えていきたい。

スポーツ・文化活動の振興 について



質問 市民会館の自主事業をしてみると、大半が幼年期の子どもを対象にした映画会などで占められており、それ以外の世代に支持されるような事業が、ほとんど行われていない。

自主事業について、一般会計からの持ち出し分は100万円である。300～1,000万円の持ち出しが認められている他の自治体と比べて、あまりにも少ないのではないかと。また、今後の自主事業に対する考え方は。

答弁 市民会館の自主事業は、現在、自主事業基金600万円と一般会計からの繰出金100万円を活用するとともに、プロダクションとの共催事業を取り入れるなど、事業のやり方を工夫している。
今後は、市民の文化意識の高揚を図るための基盤づくりとして、気軽に芸術文化に接することができる事業を展開していきたい。

質問 残業時間や休日出勤の増加によって、市民が気軽にスポーツを楽しむことが難しくなっている。午後9時までとなっている**体育施設の使用時間を、あと1時間程度延長することはできないのか。** また、指定管理者制度の導入については、今後どのような議論をしていく予定なのか。

答弁 体育施設の利用時間については、周辺住民の生活、農作物への影響などを考慮して設定されている。**利用者の方には、現行の時間で使用していただきたい。**
また、指定管理者制度については、今年度中に検討する。

再質問



休日夜間急患センターについて

質問 休日夜間急患センターを立ち上げる場合、スタッフの配置、施設の改装、事務手続きなどの**準備にどのくらいの期間を要するものなのか。**

答弁 場所さえ確保できれば、**すぐにでもできる**と考えている。しかし、今年度中の救急医療体制はすでにできあがっているため、来年度からスタートできるよう準備を進めたい。

もおか健康相談24について

質問 最近市が発行した広報誌を見ると、**もおか健康相談24**のPRは、市政ごよみの片すみ小さく掲載されていた。サービス開始当初、市内全戸にPR用のステッカーを配布したそうであるが、地域医療への関心が高まっている今だからこそ、**同様の取り組みが必要**なのではないか。

答弁 市民への周知については、先ほど答弁したように、**国保の被保険者証更新時に、案内文を同封するなどあらゆる機会をとらえて行っていきたい。**

市民会館の自主事業について

質問 『文化事業に関心を持ってもらおうきっかけ作り』というが、真岡市民が文化的なものに対して関心度がそれほど低いとは思えない。むしろ、**市民会館の自主事業が、市民の文化的欲求に追いついていないことの方が問題ではないのか。**

答弁 事業の内容を見直していきたい。今後は、**市民に質の高い芸術文化を鑑賞する機会を提供し、芸術文化を生み出す力を育てるための諸事業を行う**考えである。

要望

今後の医療体制について

今年に入り、**芳賀赤十字病院の医師不足が報道されてから、市民は不安を抱きながら生活している。**
この問題で市長1人を責めることはできないが、地域医療の再構築については市長の強力なリーダーシップを期待したい。

難病患者に対する支援策について

県東健康福祉センターによれば、真岡市内で難病患者は298名いるそうである。介護保険や障がい者手帳給付の対象者を差し引いても、『**居宅生活支援事業**』を**必要としている人は、少なくとも70名前後いる**と考えられる。
実現に向けて早急に対応されるよう要望したい。

体育施設の夜間使用時間について

私は週1回総合体育館を利用しているが、周囲を見ると利用者の多くは、残業などにより、夜8時以降に来ているようだ。『**1市民1スポーツ**』を標榜しながら、**わずかな時間しか体育施設が利用できない現状には疑問**を感じる。
体育施設の利用時間については再度検討されるよう要望したい。

郵便はがき

3 2 1 4 3 9 0

料金受取人払

真岡局承認

36

差出有効期間
平成18年10月
31日まで
(切手不要)

真岡市熊倉町3423-4

真岡市議会議員

中村かずひこ 行



3 2 1 4 3 9 0

5

市政アンケート

お名前	
ご住所	(〒 -)
お電話	
Eメール	

アンケートにご協力下さい!

「真岡市議会の議員定数について」「あなたが考える議会改革のアイデア」「真岡市政への提案」皆様の声をお聞かせ下さい。

右のハガキを書いて ▶ 切り取って ▶ ポストへ投函

(投函する際、切手は不要です。)



建設常任委員会

新世紀・公明クラブ

行政視察 & 会派視察研修

7月から8月にかけて、建設常任委員会の行政視察と会派視察研修を1回ずつ実施しました。

1. 建設常任委員会行政視察 (7月4日～6日)

視察地：石川県白山市(ハイウェイオアシス整備事業)
滋賀県高島市(市営住宅の管理・運営)



白山市にて

パーキングエリアと道の駅を複合させた「まっとう車遊館」を見学。利用者は平成10年をピークに減少しているとのこと。(開設は平成8年)

こうした施設は、開設後も一定の資金を投入して、絶えず更新を図る必要があると痛感した。



高島市にて

「北畑団地」見学の1コマ。地元産の木材を利用した低層住宅で、従来の公営住宅とは大きくイメージが違った。

人口5万5千人の同市には、881戸の市営住宅がある。(真岡市は390戸)

2. 会派視察研修 (8月22日～24日)

視察地：岩手県盛岡市(障がい児タイムケア事業)
宮城県仙台市(百年の社づくり事業)



盛岡市にて

障がいを持つ中高生を対象に活動場所を提供する「タイムケア事業」。国の補助事業開始に合わせて、今年度からスタートした。

市当局の情報収集能力と迅速な対応には感心させられた。



仙台市にて

「社の都」と言われる同市では、6年前から百年の社づくりをスタートさせた。

緑の基本計画を策定した真岡市でも、「百万本の森づくり」「市民トラストの森」など、市民が楽しみながら参加する取り組みは、今後の参考になると思う。

この視察では、右記の金額が公費でまかなわれ
ました。(議員1人あたり)

※当然のことですが、視察中の飲食代は、全て議員の個人負担です。
※議員日当(3,300円×3日)の是非については、今後も課題としていきたいと考えております。

総額	86,570円	出所	議会費のうち旅費
内訳	交通費、宿泊費、 相手先みやげ代、議員日当など		

この視察では、右記の金額が公費でまかなわれ
ました。(議員1人あたり)

※当然のことですが、視察中の飲食代は、全て議員の個人負担
です。

総額	67,180円	出所	政務調査費
内訳	交通費、宿泊費、 相手先みやげ代		

※なお、視察の詳しい所見については、中村のホームページにて掲載予定です。

『きれいな町』にはそれなりの…

「仙台って本当にきれいな町ですね」訪れた人たちは、口々にそう語る。新世紀・公明クラブが同市の「百年の社づくり事業」について視察したのは、8月24日のこと。真岡市内で近年、頻りに街路樹が切り倒されている現状から、「社の都と言われる仙台はどう取り組んでいるのだろうか」と思ったことがきっかけだった。

「確かに市民から街路樹に対する苦情はあります。でも『切り倒せ』という意見はありません。仙台は、はじめに木があって、そこに街ができて、その中で人が暮らしているという意識が、市民に根強くあるのかも知れません」担当職員の話聞いたとき、目から鱗が落ちる思いだった。

ひるがえって、私たち真岡市民は緑というものにどこまで愛着を持っていただろうか。「社の都」「きれいな町」と皆から評価を受ける自治体には、見えない部分で長きにわたる市民意識の積み重ねがあるのだと痛感させられた。

コラム



真岡工ナインの活躍にエールを!

真岡工野球部が県秋季大会で準優勝し、11月3日から群馬県で行われる関東大会に出場する。ナインの健闘に心から拍手を送りたい。

私も準決勝を球場で観戦したが、単に試合運びのうまさだけではなく、きびきびとしたプレー、マナーの良さなど、以前と変わらない「真工野球部らしさ」が随所に見られたのが何よりもうれしかった。(4年前まで高校野球を実況していたもので…)

芳賀地区はこれまでも、中学野球のレベルで常に高い評価を受けてきた。しかし、県内はもとより東京、埼玉などの強豪校に、球児の進学が相次いでいた。真岡工ナインには「地元でもここまでやれるんだ」という心意気を、ぜひ大舞台でも見せてほしい。

ちなみに、関東大会で2勝以上すれば、センバツ出場が「当確」となる。長年、球児たちが、そして市民が待ちわびた『悲願の春』まで、もう少しである。

市政アンケート

◆現在、真岡市議会の議員定数は26名ですが、これについて、あなたはどのようにお考えですか。

- 1.現状のままでよい
- 2.定数は変えた方がよい(名程度)

その理由など、コメントをご自由にお書き下さい。

◆そのほか、あなたが考える議会改革のアイデアを教えてください。

◆「真岡のまちをこうしよう! あなたのアイデア大募集」(自由テーマ)



中村かずひの活動日誌

- 7/4~6 建設常任委員会行政視察(石川県白山市、滋賀県高島市)
 - 11 あいさつボランティア
 - 16 ボランティア連絡協議会研修会に参加
 - 17 「フェスタジュニナ」に参加
 - 19 「ひばりの会」定例会に出席
- 22~24 真岡の夏祭りに参加
 - 25 夏祭り後片付け
 - 26 議員定数等問題研究会
 - 29 栃木県市議会議長会講演会に出席(於:栃木市)
- 8/2 「ひばりの会」定例会に出席
 - 3 「ひばりの会」音訳作業
 - 6 「戦後60年一命について考える」に参加
 - 東郷団地夏祭りに参加
 - 8 国民健康保険運営協議会/教育委員会にてヒアリング※LD/ADHDについて調査
 - 9 福田市長と面会※救急医療の現状について意見交換
 - 11 真岡鐵道にてヒアリング※経営状況などについて調査
- 13~14 もおか木綿ふるさと踊りに参加
 - 15 県東健康福祉センターにてヒアリング※難病患者の支援策について調査
 - 17 佐藤教育長と面会※文化事業などについて意見交換
 - 18 「介護予防トレーニング」を個人視察
 - 20 トンボの池管理作業に参加/やまさわの里夏祭りに参加
- 22~24 会派視察研修(岩手県盛岡市、宮城県仙台市)
 - 25 つくばエクスプレスに試乗
 - ※真岡~秋葉原まで3時間。下館駅での待ち合わせ時間が課題。
 - 26 「パーキンソン病 あゆみの会」と意見交換
 - 27 大谷の夏祭りに参加
 - 28 夏祭りの後片付け
 - 31 真岡小学校にてヒアリング
- 9/1 9月定例会開会
 - 議員協議会
 - 一般質問の通告書を提出
 - ※その後、市の担当部署と内容のすり合わせ
 - 5 あいさつボランティア
 - 「ひばりの会」音訳作業
 - 6 「ひばりの会」定例会に出席
 - 8 質疑・一般質問1日目
 - 9 質疑・一般質問2日目
 - ※この日、トップバッターとして登場
 - 真岡地区区長との懇談会
 - 10 真岡中学校運動会に出席
 - 大谷地区敬老会に出席
 - 11 「ひばりの会とテーブル利用者の集い」に参加
 - 12 あいさつボランティア
 - 14 建設常任委員会
 - 15 日本教育新聞より取材
 - やまさわの里敬老会に出席
 - 16 議員定数問題等研究会
 - 17 真岡西小学校体育フェスティバルに出席
 - 亀山小学校運動会に出席
 - 18 高勢町敬老会に出席
 - 21 決算審査特別委員会
 - 26 「CBフォーラムin芳賀」に参加(主催:真岡青年会議所)
 - 27 議員協議会
 - 9月定例会閉会
 - 会派建議要望を市長に提出
 - 28 明るい選挙推進大会に出席(於:茂木町)
 - 30 「市民の会」定例会に出席